

平成30年度 特待入学試験

受験番号	
氏名	

国語

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- この問題冊子は11ページです。
- 試験時間は50分です。
- 受験番号・氏名は、問題冊子・解答用紙の両方に書きなさい。
- 文字・記号などを正しくはっきり書き、答えは解答用紙に記入しなさい。

一次の①～⑩について、——線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- ① 航海を終えて半年ぶりにキコウした。
- ② 今後どうなるのかケントウがつかない。
- ③ ここは盆地のためカンダンの差が大きい。
- ④ 銀座のキキン店が何者かに襲われた。
- ⑤ 今はひたすら勝つことだけをツイキユウする。
- ⑥ 業績悪化により倒産は必至の情勢である。
- ⑦ 芥川賞作家の最新作が文芸誌の巻頭を飾った。
- ⑧ この地域は生糸や絹織物の産地として知られる。
- ⑨ 彼の反骨精神が想定を上回る結果をもたらした。
- ⑩ 有田焼や九谷焼などの磁器にとっても興味がある。

二次の問いに答えなさい。

問一 次の①～⑥の——線部の漢字にまちがいがあるものをすべて選り記号で答えなさい。

- ① その件については賛否両論の声があがっている。
- ② 長い年月を経て、ようやく晴天白日の身になった。
- ③ ここ数年来、医療技術は日新月歩で向上している。
- ④ 試行錯誤と総意工夫とによって新商品が生み出された。
- ⑤ 転校をきっかけに、心気一転、学習を頑張ろうと思う。
- ⑥ 今年は日本でも天変地異ともいふべきことが多く見られた。

問二 次の①～④の()に共通してあてはまる漢字一文字を書きなさい。また、完成した四つの慣用句の中から一つを選び、その慣用句を用いて、十字以上、二十字以内の短文を作りなさい。(句読点をふくむ。)

- ① () が散る
- ② () が短い
- ③ () をもむ
- ④ () を引く

問三 「木材」「並木」という熟語は「木」という字の読み方がちがいます。このように一つの漢字の読み方を変えて、二字の熟語の組み合わせを作りなさい。また、それぞれの読み方を答えなさい。ただし、「木」以外で答えること。

問四 次の①～⑤の——線部の言葉の意味を後のア～カから選んだ時、一つだけどれにも当てはまらないものがあります。それを記号で答えなさい。

- ① はさみで布をたつ。
- ② 飛行機で東京をたつ。
- ③ いたたまれず席をたつ。
- ④ 次の衆議院選挙にたつ。
- ⑤ あれからもう五年がたつ。

ア 経過する イ 出発する ウ 裁断する エ 立候補する オ 行動を起こす カ その場を離はなれる

問五 次の文を「昨日、私は」ではじまる文に書き換かえなさい。

昨日、私が受けた算数のテストはとても難しかった。↓昨日、私は（ ）。

三 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

答えのない問題を考え続けるために、まず基本として紹介したいのが、「認識論」という考え方です。認識論などというとは何か高級ですが、まず例題を出しますので考えてみてください。

次のうち、あなたはどちらが正しいと思いますか。

①地球を中心に、太陽が回っている。

②太陽を中心に、地球が回っている。

「何を簡単なことを聞くんだ」と思ったでしょう？ 皆さんもご存知の地動説・天動説です。

これは十六世紀の大テーマで、その当時は①が○で②が×でした。②を○というとは、火あぶりの刑で処刑されたのです。それを十七世紀にガリレオ・ガリレイが、望遠鏡を使っている観測をした結果、彼は科学的な根拠をもとに②が正しいと考えたのです。

でもその当時は、現代に生きる皆さんとは逆で「②だなんて、何をバカなことを言う。お前は神にそむくのか」ということで、ガリレオは裁判にかけられました（このとき彼が「それでも地球は回っている」という名言を残したといわれていますが、これはどうやらフィクションのようですね。とにかく、当時はそういう状況だったのです。

いまはもちろん①が×で②が○です。①が○という人は、今はいないでしょう。

なぜこのように、○か×かでスッキリ答えが出るかというと、これは自然科学の問題だからです。

つまり、「正しい、正しくない」の認識は、自然科学の場合は可能なのです。

自然科学では、まず仮説を立てて、対象を注意深く観察したり、実験をしたりします。そしてその仮説を検証することによって、②が○で①が×であることがわかったわけです。

たとえば、月の満ち欠けではなくて惑星、とくに火星・水星・金星の大きさや欠け方とか、さまざまな恒星の動きなどを観察した結果、たしかに地球が中心ではない、太陽を中心に、地球も惑星のひとつとして回っていると考えたほうが、すべての理屈に矛盾が出ない、ということがわかったわけです。

このように、自然科学では、「誰が見ても正しい、正しくない」を明確にすることができます。逆にいうと、

I

。

①お雑煮のお餅は生で入れるほうがおいしい。

②お雑煮のお餅は焼いてから入れるほうがおいしい。

これはみなさんどちらですか？ ちなみに私は、個人的には②がおいしいと思っています。

ところが、私が講演で訪れたある地域では、「焼くⅡ厄」に通じる、ということから、焼いたお餅をお雑煮に入れるというところはありえないというのです。「正月早々、厄を入れるなんて縁起でもない」というわけですね。これはたぶん、地域ごとの風習や、個人的な好みによっても答えは違うと思います。どちらが正しいということはないのです。こういう問題で「どちらが正しいか」を議論しても、永遠の水掛け論になってしまいます。

② 難しい言葉でいうと、こういう問題を「形而上の問題」といいます。「答えのない問題」と思っていたら結構です。つまり、答えを○か×かにできないということです。

世の中には答えのない問いがあります。たとえば、宇宙に果てはあるのかとか、人間が生きる意味とは何かとか、こういう問いには答えられないのです。だから、正しい認識というのは、すごく難しいのです。だって、○か×かで答えられないのですから。

じゃあ、どうしたらいいのか。答えられない問いだからといって、考えることをやめてしまったり、「どうでもいい」と開き直ってよいということではありません。

答えのない問いには、答えのない問いなりに考え方がありません。

それを今から説明したいと思います。

あらためて聞きます。どちらの認識が正しいでしょうか。

① 死はこわい。

② 死はこわくない。

ある先生は、「死はこわい」が○で、「死はこわくない」が×です。一見、これは正しいように思えます。この結果、「死はこわくない」と思っている子どもがいるから、平気で人を殺せるんだ。死はこわいということをや、きちんと教育しなければならない」という理屈につながっていくわけです。

でも、本当に「死はこわい」が○で、「こわくない」は×だと言えるのでしょうか。

自然科学の問題であれば、Ⅱを立て、ⅢやⅣをして現象を数値化することで○か×かがⅤできます。でも、死はこわいかこわくないかを検証できるでしょうか。こつちが○でこつちは×と言い切れるかというと、かなり怪しいのです。

③ これは、結局お雑煮の問題と同じことなのです。「お雑煮のお餅は生で入れるのと、焼いて入れるのとではどちらがおいしいのか」。

仮にどちらかがおいしいとすれば、では「おいしいことが正しい」のか。

こんなことを言うと、お雑煮の好みの問題といのちの問題を一緒にするのかと言われそうですが、そういうことではありません。「問の質」として、「お雑煮はどちらがおいしいのか」も「死はこわいのかこわくないのか」も、「どちらが正しい」と言い切れる問題ではない、ということをお私言いたいのです。

このように、「死はこわいかこわくないか」という問題は、さきほど言った「形而上の問題」であり、答えのない問題です。死がこわいのが正しくて、こわくないのが正しくないとは言切れない。それを前提としたうえで、このテーマを解決していく可能性を持つのが、「認識論」という方法なのです。

あらためて、「認識」についてもっと簡単に整理してみましょう。

ここにリンゴがあります。そしてAさんがいたとします。Aさんが、目の前にリンゴがあると思うためには、どうしたらいいか。ふつうは目の前にリンゴを置けば、Aさんはリンゴがあると思います。リンゴという原因がある、だから、Aさんはリンゴがあると思う。当たり前の話ですね。これがふつうの認識です。

このように、リンゴがあるときは何も問題はありません。問題は、リンゴがなくても、Aさんにリンゴがあると思えるにはどうしたらいいでしょう。頭の中で「リンゴがある」と思えばいいのです。

これはバーチャルリアリティの映像を映す眼鏡をかけて、そのリンゴの映像を投影してもいいですし、脳に電極を刺してリンゴが見えるような刺激を送るということでもいいわけです。

④このような認識の発想を考えた人は、フッサールという哲学者でした。

ふつうは、原因であるリンゴがあるから、結果としてリンゴが見える。これが原因と結果です。原因と結果が一致したときに、正しい認識といえるわけです。

とてもまわりくどいアプローチの仕方をしているかもしれませんが、もうしばらくおつきあいください。ここで、SMAPの『SHAKE』という歌詞の一節を紹介したいと思います。

『SHAKE』（森浩美／作詞）

「きよう会わない？」ってキミの電話　ボクも今そう思っていた

テレパシーみたいでウレしい　明日は休みだ仕事もない

早起きなんかしなくてもいい　キミと昼まで眠れそう

o h : 渋滞のタクシーも　o h : 進まなくなっちゃって

イライラしない year!

シェイクシェイク ブギーな胸騒ぎ チョーベリベリ最高ヒツピハツピシェイク

シューシュー星が流れてく あしたからハレルヤ ふたりならヤレルヤ

ポケットティッシュを2個もらった ネオンボードは輝いてる

街は楽しくうたってる すれ違つてく恋人たち

ウデを組んだりけんかしたり みんなどこへ行くんだろう?

oh:ガムをふんづけても oh:きようはオコらない

イライラしない year!

シェイクシェイク ブギーな胸騒ぎ チョーベリベリ最高ヒツピハツピシェイク

ヘイヘイ嫌な顔しない キミと会えるから あしたからハレルヤ

(以下略)

〈日本音楽著作権協会(出) 許諾第〇七二〇五三七七〇一号〉

ある人が、タクシーに乗っていて渋滞に巻き込まれました。ふつうは、^⑤メーターも^Aどんどん^B上が^Cつていくし、^D約束の時間に^E遅れる^Fかもしれないし、イライラしますね。でも、この歌詞の中の主人公は、渋滞のタクシーの中でもイライラしないと言います。なぜか。それは「キミと会えるから」。恋人にこれから会いに行くという状況であれば、タクシーで渋滞に巻き込まれても、彼はその現象に対してイライラしないわけです。

あるいは街を歩いていてガムを踏んづけます。ふつうは頭にきますね。こんなところにガムなんか捨てやがって、と思います。でも彼は「きようはオコらない」し、「嫌な顔しない」。なぜかといえば、それは「キミと会えるから」。キミという「関係性」のために、彼はいつもならイライラすることにも、イライラしないのです。

さて、どうすれば私たちは、^⑥普通ならイライラするような場面で、イライラするという認識から逃れられるのか。

この歌詞のケースでいえば、あらかじめ道路交通情報をチェックして、渋滞が発生しているときにはタクシーに乗らないようにする。街を歩くときにはガムが落ちていないかどうか、気をつけながら歩く。苦しまないためには、原因である苦しみに出合わなければいいわけです。これは当然ですね。

予防医学でも、血圧に気をつけよう、メタボリックに気をつけよう、つまり、病気の原因を作らないようにしましょうという呼びか

けをしているわけです。苦しまないためには、まず予防する、原因を回避する⑦⑧ということが大切なのです。

学校でさまざまなことを学ぶ意味は、私たちが安心して生きていくために、問題を回避するための知恵や、問題が起きた場合でも解
決できるための力を養うというところにあります。

さて、これを「死」ということで考えてみます。

ふつうは、死はこわいと思いますね。なかには、死はこわくないという人もいるでしょう。

死はこわいのか、こわくないのか。これは、どちらが正しくて、どちらが間違っているとはいえないということ、前に述べました。
そのことを私は、ホスピスの経験を通じて、強く実感しています。

ホスピスに入院してくる患者さんは、もうすぐ自分が死ぬということがわかっている人たちです。にもかかわらず、すごく心がおだ
やかだと認識できる人がいます。つまり、「死がこわくない」のです。

そういう人たちに、「なぜあなたは、間もなくお迎えがくるとわかっているにもかかわらず、おだやかでいられるのですか」とたずね
ると、それぞれの答えが返ってきます。

ある三十代の女性は、自然が大好きな人です。冬山で遭難して、あやうくいのを落とすような経験もしましたが、無事に生還でき
ました。自分は常に自然が守ってくれた気がする。そして、家族がいて、一緒に山に登った仲間がいて、みんな私のことを思ってくれ
る。ホスピスのスタッフ、看護師さんたちがついてくれている。だから私は大丈夫。そんなふうに答える人がいます。

ある八十代の女性は、信仰を持っていました。こうして生きていくことは、ひとつひとつが感謝に思えて、神様が守ってくれてい
ると感じる。だから大丈夫。

あるいは、五十代の女性は、死んでもあの世から子どもたちの成長を見守ることができると信じています。たとえ私が目に見えない
存在になっても、ずっと子どもたちとつながっていることができる。だから私は、間もなくお迎えが来てしまうけれども、こわくはあ
りません、と言います。

別の八十代の女性は、亡くなったおじいさんが「おいでおいで」と呼んでいる。大好きなあのおじいさんにまた会える。そう思え
たら、死ぬことそのものは決してこわくない。早く会いたいなあと毎日毎日思っています。だから大丈夫だと言います。

これらは、「関係性」と表現します。決して自分が一人ではなくて、多くの仲間、家族であったりスタッフであったり、信仰を持つ人
は神様であったり、そういう支えがあったときに、人は死が近くても、おだやかでいられるのです。

(小澤竹俊『いのちはなぜ大切なのか』より)

問一——線①「そういう状況」とは、どういう状況ですか。その説明としてふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

アどんなに科学的な正しいことを提唱していたとしても、世間を騒がせ混乱を与えたという理由だけで、処刑もやむなしとみなされてしまうような状況。

イ神話をもとにした定説が真実として人々の間に広く浸透して、自然科学という分野がまだまだ多くの人の理解や信頼を得るにいたっていないという状況。

ウ何が正しくて、何が正しくないのかを突きつめていくために、科学的な根拠に基づいて考えなければならぬことを理解していても、技術面が追いついていないという状況。

エ人々の間にすでに定着した考え方を根底からくつがえすような考え方を示した場合、それが科学的な根拠をもっていたとしても世間からきびしく非難されてしまうような状況。

問二——

I

に入る文を次から選び記号で答えなさい。

ア自然科学の分野でしか、それは言えないのです。

イ自然科学でもそれらの矛盾は解消できないのです。

ウそれこそが、自然科学のたった一つの力なのです。

エそれゆえに自然科学は「万能の学問」と言われるのです。

問三——線②「こういう問題」とありますが、どういう問題ですか。解答欄の「という問題」につながる形で、本文中から十一字でぬき出して答えなさい。

問四——

II

と

V

に入る熟語をそれぞれ本文中からぬき出して答えなさい。

問五——線③「これは、結局お雑煮の問題と同じことなのです」とありますが、「いのちの問題」と「お雑煮の問題」とはどのような点で同じだというのですか。わかりやすく説明しなさい。

問六——線④「このような認識の発想」とは、どのように発想することですか。わかりやすく説明しなさい。

問七——線⑤「ふつうは」はどこにかかりますか。~~~~線A〜Fから選び記号で答えなさい。

問八——線⑥「イライラするような場面」とありますが、「SMAP」の『SHAKE』の中で描かれている「イライラするような場面」を二つ、わかりやすく説明しなさい。

には、次のア～エの文が入ります。文意が通るように正しい順番に並べ記号で答えなさい。

アにもかかわらず、イライラしない、怒らないと思うことができる。

イ渋滞に巻き込まれ、ガムを踏んづけてしまうのが私たちの人生です。

ウそれは、この場合には「キミと会える」という関係性がそれを可能にするわけです。

エしかしそれを十分に学んでいても、それでも私たちは人生において困難に見舞われることがあります。

問十——線⑦『死』ということを考えてみます」とありますが、「死」についてのとらえ方として、筆者はこの後でどのようなことを

示していますか。次から選び記号で答えなさい。

ア死そのものが人間にとって答えない永遠の問題であり、無理に答えを求めずに生きていくことが大切だということ。

イ死がこわいかこわくないかは、間もなくお迎えがくるという状況になって初めて、答えが分かるものであるということ。

ウ死が自分に迫っているような状況であっても、自分を支えてくれるものを認識した時、人はおだやかでいられるということ。

エ人間にとって本来はただこわいだけの死ではあるが、こわくないと思いつくことでそれに立ち向かうことができるということ。

問十一——線⑧「どちらが正しくて、どちらが間違っているとはいえない」とありますが、あなたはどのようなことにそう感じますか。

その理由もふくめて、わかりやすく答えなさい。(ただし、本文の中で筆者が取り上げていることとは別のことを答えること。)

四次の文章を100字以内で要約しなさい。(句読点をふくむ。)

JR紀伊田辺駅に特急列車が到着するたびに、リュックを背負った外国人旅行者が降り立つ。目的地は世界遺産に登録されている熊野三山や熊野古道。まずは、駅前の観光センターに立ち寄って交通や宿泊、飲食の情報を確認し、思い思いの旅を始める。

▼そうした旅行者を受け入れている田辺市熊野ツーリズムビューローでは、昨年度の扱い実績が前年度の1.1倍になった。外国人旅行者が増えるにつれて各地で、花見の名所で桜の枝を折ったり、スキー場の滑走禁止区域を滑って遭難したりといったマナーの悪化が問題になっているが、当地ではどうなのだろうか。

▼観光関係者は「熊野を訪れる外国人旅行者はマナーがいい」と口をそろえる。外国人宿泊客が5割を超える時季もあるという田辺市内の旅館経営者は「欧米豪からの旅行者は神社、仏閣など日本の文化に関心を持っている人が多く、マナーがとてもしっかり。事前に浴衣の着付けを勉強してきたという方までいます」と話す。

▼外国人旅行者が増えても熊野古道にごみが落ちていないのもその一つだろう。地元の人たちが世界遺産登録前から清掃ウォークをしたり不法投棄のごみを回収したりしてきた積み重ねはもちろん、スペインの世界遺産・サンティアゴ巡礼道との交流により「聖地に続く道」という価値観が外国人旅行者に伝わっていることも見逃せない。

▼土地の文化を大切にす来訪者を歓迎したい。

(紀伊民報「水鉄砲」平成二十九年六月二十四日)

